

神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可 昭和40年7月15日印刷通巻52号 昭和40年7月15日発行 毎月1回15日発行

郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

7月号



magazine kobekko july 1965 no. 52

永遠の気品
ミキモトパール
何代にもうけつがれて
愛されている輝き
みがきぬかれた
細工技術と
香り高い芸術性は
海外でも
高く評価されています
ミキモトは
権威と信望を集めた
世界の宝石店です



ミキモトパール 御木本真珠店

神戸店＝三ノ宮・神戸国際会館

Tel. 22-0062

大阪支店＝堂島・新大ビル

Tel. 363-0247



これは神戸を愛する人々の
手帖です

あなたのくらしに
たのしい夢をおくる



神戸を訪れる人には

やさしい道しるべ

これは神戸っ子の

心の手帖です

絵 / 中西 勝二(記念)

きこえます 人魚のためいき

きこえます 海のうた

パールにひめられた

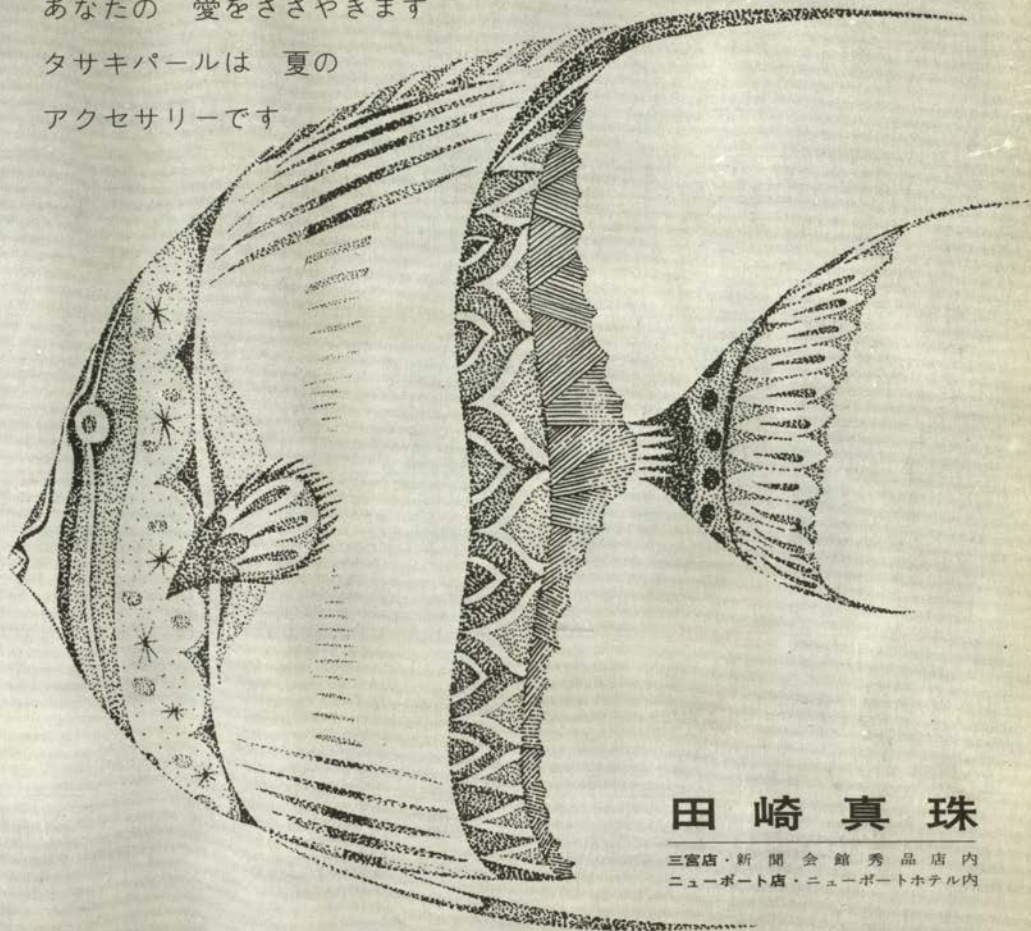
かずかずの言葉が

あなたの 愛をささやきます

タサキパールは 夏の

アクセサリーです

Pearls by Tasaki



田 崎 真 珠

三宮店・新聞会館秀品店内
ニューポート店・ニューポートホテル内



私の好きなきとき

梶谷節子

〈青玄、神戸句会々員〉

撮影 / 西村雅司

私の好きなきとき。それは私ひとりだけの世界を想像や空想の中で作り出す時です。青い地球を手のひらに乗せてみたり、あるときはさくらんぼ色のドレスでトウダンスをしてみ……そんな私の想いは小鳥のように翼をひろげから無限の青空に広がる。私の俳句も又そんな空想の世界から生まれるものが多い。

「ふりむいた夏、あなたの白い歯が好きで」

この句のあなただって、ほんとうは私がまだめぐり会えずにいる空想の中の恋人なんです。ですけどこの句を真先に賞めて下さったのは何と歯医者さんだったのですよ。

〈梶谷節子〉

台湾生れで、四国佐田岬育ちの梶谷さんは一昨年神戸へやって来た。田中千代学園に在学中の「洋裁詩人」で、「青玄」の神戸句会の会員である。神戸の灘・辰中町の下宿はひとりぼっちの生活。「甘えっ子だけれど、ひとりは淋しくない」とまだ幼さの抜けきらない20才のお嬢さん。俳句の新鮮な感覚が期待されている。

〈青柳荘で〉

自信をもって
タジマの目を選んだ
世界の宝石の名品!



白金台ダイヤモンド指輪

Tajima
タジマ

当店でお買上げのダイヤ指輪は販売価格で引取り交換をお約束しております
お知らせ ■ 夏期休暇のため7月19日より28日の10日間休業いたします

宝飾店

元町2・TEL ③ 0387・2552



私の好きなとき

フィリップ・ビゴ

〈ドンクフランスパンコーナー主任技師〉

撮影 / 西村雅司

「パン」ツクリガ、スキデスカッテ？
モチロン、イヤダッタラ ムカーシニヤメテルヨ。
「パン」ヨヤイテルトキハ、ゼーンプ、スキ。
カッキガアルカラ、ダイスキデス。
コウベノミナサンニ、オイシイフランスパンヲ
タクサンタベテモライマシヨウ。

〈フィリップ・ビゴ〉

若くて、陽気なムッシュユー・ビゴ(23才)は、トアロードの洋菓子店ドンクのフランスパンコーナーで、外皮がカリカリ固く、中がふんわり柔かいフランスパン独特の味覚造りに懸命である。威勢のいいフランス語が、まわりの神戸弁にまじってボンボン仕事場に響く。13才の時から父親経営のビゴの店でパンを焼き、現在フランス国立製粉・製パン学校の講師。4月11日にドンクの招きで来日。1年間フランスパンの技術指導をする。

〈ドンク・フランスパンコーナーで〉

取扱車種 フォルクスワーゲン、メルセデス・ベンツ、キャデラック、ビュイック、ボクスホール、ボルボ



メルセデスベンツ 220S ¥2,950,000



神戸ヤナセ株式会社

神戸市葺合区磯上通5丁目1 TEL <23>5402



ある集い
ひととき会
神戸グループ

朝日新聞夕刊の家庭欄に「ひととき」というコラムがある。その短文の行間から様々な女性の世相を映した姿がうかがえる。その「ひととき」欄に投書した婦人が集まって各地にグループを作っているが「ひととき会神戸グループ」もその一つ。昨年、10周年を迎えたこのグループは、朝日新聞神戸支局の応接間で月に一度、会員が顔をあわせる。今日の議題は、人間関係について。A夫人はPTAの話題を、B夫人は有名校へ通学するために地域社会の人間関係から子供が浮きあがる悩みを、C夫人は井戸端会議も結構楽しいと語る。それぞれの違った神戸の中の風土を反映して出て来る問題を、話し合いの場でおつけあい、互いに考え合う。真剣な中にも、気の合ったもの同志のなごやかさが漂っている。

神戸グループの編集で「ひととき誌」の61号も出た。地道に根気よく花を咲かせてほしい集いである。

写真は前列左より

- 田中 照子
- 藤本 伸子
- 小島 種子
- 窪田 君枝
- 二人オプザーバー
- 佐藤 知子
- 後列左より
- 松井 輝子
- 池上 知子
- 井上 敏子
- 津田 一恵
- 一人オプザーバー

アメリカ・サンジエゴにあるムラタパール日本村では、盛大なサマーフェスティバルが開かれています。なかでも海女が演じる日本情緒ゆたかなダイビングショーは、今年もカリフォルニアの人気を集めています。

Murata Pearls

1965 SUMMER FESTIVAL IN U.S.A.



ムラタパール

ショールーム

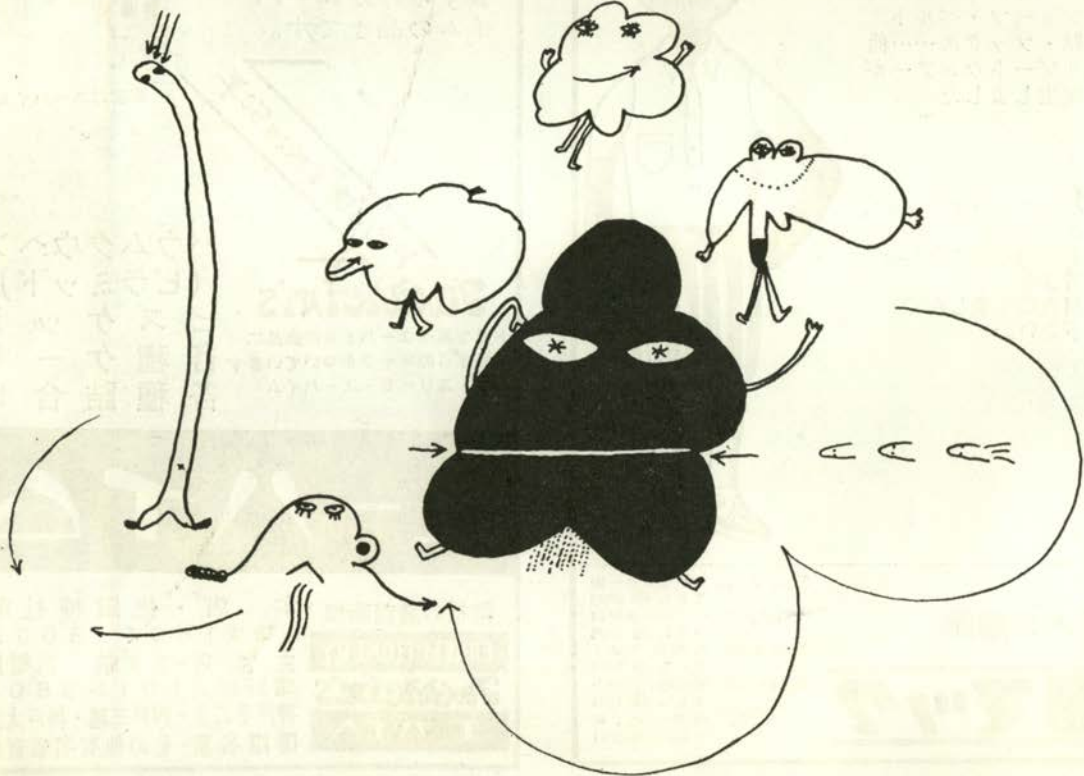
山本通4・㊤1212～6

■三宮地下街店〈10月オープン〉

7月号目次

- 1 Second Cover / 中西 勝
 3 グラビヤ / わたしの好きな時 / 撮影・西村雅司 / 梶谷節子・フイリップ・ヒゴ
 7 グラビヤ / ある集い「ひととき会神戸グループ」
 11 わたしの意見 / 広瀬勝代
 12 随想3題 / ハツとノハツと / 新谷瑠紀 / 神戸に寄せる・エリザ・ポール / 神戸労首の15年をふりかえって・紫田隆弘
 15 東南アジア通信⑤ / 中谷 勲
 16 ある集い / その足あと / 小島種子
 19 随想 / 雨の日抄・白川 濯
 21 随想 / 視覚型人間・田辺聖子
 23 随想 / 神戸の女性きょうとあす
 伊藤 昇
 27 神戸っ子放談 / 小林秀雄
 29 経済ポケットジャーナル
 30 るぼるたいじも神戸⑩ / メリケン波止場 / 松原新一
 39 THE DOOR MAN of ORIENTAL HOTEL I
 40 映画S.J.の手当り次第⑩ / 淀川長治
 42 コニチワ船長さん⑩ / きく人 / 玉奥 章
 44 神戸の集いから / 古丹波焼の会
 46 MODE of Kobe / 福富芳美
 49 7月の髪 / 西野 明
 55 パリ通信⑩ / 佐藤昭年
 56 暮しのパラエティ⑩ / 夏向きのお菓子
 61 座談会 / 神戸の女子学生
 69 コウベシヨウビンダ・アンケート
 74 神戸遊戯誌23 / 軟式テニス⑩・青木重雄
 76 神戸うまいもん巡礼No.88 / 赤尾兜子
 78 紳士入門⑩ / 竹田洋太郎
 80 ホケットジャーナル
 87 神戸を愛しむ私のコース / 神原芳平
 88 連載第27回 / 神戸夫人・武田繁太郎
 95 グラビヤ / 酒徒交遊録・中西 勝
 96 グラビヤ / 神戸12カ月・岡部伊都子
 撮影・緒方しげを

表紙・小磯良平 / カメラ・米田定藏・米田昌弘 / レイアウト・中辻悦子





BERMUDA Look

世界でも指折りの避暑地として
バーミューダ島の名は有名です

バーミューダの名で
ショーツ・ベルト
靴・ソックス……他
リゾートウェアが
誕生しました



バーミューダルックで
この夏の
本格的な着こなしを
若さを
MACで楽しんで
下さい。

若人の服飾

 **マック**

三宮本店	神戸センター街 TEL ☎ 0895
トアロード店	センター街西口 TEL ☎ 0896
新開地店	新開地本通り TEL ☎ 7688
姫路店	姫路駅デパート TEL ☎ 1261
京都店	藤井大丸2階 TEL ☎ 28181

ドイツ菓子

ドイツの長い伝
統につちかわれ、
うつくしい日本に
花ひらいた生粋の
お菓子。それを代
表するのがユーハ
イムの品々です。



戦前のユーハイム

ドイツの味を75年

Fachreim's

ドイツ菓子ユーハイムの商品に
は必ずこのマークがついています
社長/エリーゼ・ユーハイム

バウムクウヘン
(ピラミッド)
ビスケット
各種ケーキ
各種詰合せ

ユーハイム

弊社の登録商標

CONFECTIONERY

Fachreim's

ユーハイム

本店・生田神社前
電話 ☎ 1694・8063
三宮店・大丸前 市電筋
電話 ☎ 2101 ☎ 3808
神戸そごう・神戸三越・神戸大丸
国際名菓・その他有名百貨店

＊わたしの意見

世界的な視野を 広めよう

広瀬勝代

(兵庫県連合婦人会会長)



六月五日、甲子園の阪神パークで創立20周年を迎えた兵庫県連合婦人会の記念婦人会が行なわれました。一人一人近くの婦人が参加したわけですが、今だに全国から祝福と励ましのお手紙をいただいております、本当に感激しています。

ここで20年間の歩みを振り返ってみて、いちばん深く心に残っているのは、なんといっても創立5年目につくった女子の奨学金制度のことです。戦後、参政権、選挙権を与えられるなど、婦人の社会的地位はたしかに向上したといえるでしょう。また、大学の門戸も大きく開かれるようになったわけですが、それにしても当時は女子は高校だけ卒業すればいいという考え方が根強く残っていました。あるいは、能力はありながら家庭の経済的その他の事情のために、大学へ進学できないという人も多かったのです。しかし、このような状態では、真の婦人の地位向上は実現できないと思います、女子のための奨学金制度を発足させることになりました。当初はとも続くまいと危惧されたのですが、母親の子を思う配慮に本来打算はありません。お互いの団結心と意志によって、今日までに既に一四〇人の女子大学生を世に送り出したことを、心から喜んでいられるわけです。しかも、それによって、お金を出す側の婦人自身の自己教育がなされたというところ、つまり、一人の会員が一年に五円づつ出して、お互いが一会員としての責任を自覚し、またそれを完うするところ、ここにこの制度の大きな意義があったと信じています。私どもは、従来5年毎に大きな記念的な事業を続けてきました。十年目には全国ではじめて「父の日」を制定し、十五年目には念願の婦人会館を神戸に建設、そしてこの二十周年には芦屋市奥池にユネスコ会館を建てました。このように私どもの歩みは、徐々に世界的な視野を広げる方向に進んできていることがわかります。足元を見ることはもちろん大切ですが、同時に世界の動きを知らなくてはなりません。島国根性は、もう開放すべきだと思います。

私が上京する度にいつも見るのが、某デパートの前に設置されている等身大余のプロンズ(青銅製の裸婦立像彫刻です。

毎日猛暑が続くと、街行く人々のコスチュームも次第に薄くなつて、ダイナミックな、あるいはヒンジャクなBODYを露わにして闊歩している女性の姿が到る所に見られるような季節ですが、全く動く彫刻のモチーフをナマで存分に拝見させて頂けるわけです。

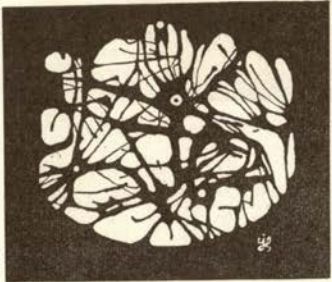
□随筆三題

ハツと！ハツと！

新谷琇紀(ハカットも)

仏教に三十二相(半陰陽神)の理想美が説かれてるように、日本でも昔から美女の標準なるものが決められています。風俗画の巨匠、西川祐信の三十二相の品定め

先ず理想的とされているのは未だに聞いたことがあります。日本、欧米でもキメの荒くて、硬い皮膚は確かにモテナイと聞いています。たとえ色が白く、造作のバランスが良くても、一見ザラザラ肌では、触覚に対する美的感動が失われ、百年の恋も興ざめでしよう。



私達の世界では彫刻の肌は眼で触わるといふ言葉をよく使います。他人の肌は唯見るだけであ

り、触つちやイケマセン……唯個々に気持を抱くだけであるのなら別にどうであつてもよさそうなものだが、そういう訳にはゆかないものでしょう。それは我々の視覚に訴えるものはすべて必ずその裏に触覚が潜んでおり、触ればどんな感じだろうか？ という願望が含まれていると思われま

素だと述べているように、ギリシヤ、ローマ時代の彫刻のマーブルの肌、自動車の磨かれたボディ、木の葉、キラキラ光る小川のせせらぎ、木の間から洩れる鈍い光を受けたピロッドのような苦の斜面、美女の肌等々……と数えるときりがなく、ソバカス、ウブ毛の濃い欧米人は全くすさまじい感じがします。これに対して日本女性の肌はシユトラツツさえ讃めてるように、羽二重、餅肌といわれているのも、この滑らかさ故なのでしょう。

女性の身体で変化に富んでいる前面は主であり、骨、筋肉の起伏の少ない滑らかな肩、背、臀への美しきスロープのいわゆる背面は従となつていようです。従つて男性にとつて、バックシャンなる女性を見れば当然彼女の前を見る楽しみを持つのは、人情ではないでしょうか？ アングルヤルノアールの名画の中で見られる優雅な後向きの人像作品以来、背面美が注目され始めたのに興味があります。昨年夏頃から、バックレス、トップレス、スタイルの流行の折から、今夏もより一層前面、背面のチャームを願いたいものです。ハツとノムツとノよりは、ハツとハツとノであれば暑い夏も楽しいものです。

〈彫刻家〉

「やはりお住いは神戸で？」
とたんに私はニヤリとする、相手の期待にそむくからだ。

「大阪です」

「ほう、」

意外そうな相手の表情：これが大低の場合の初対面の相手と私との問答コースである。どうも私の名前と容貌から察すると神戸向きにできてゐるらしい。と

神戸に

寄せる

エリザ・ポール



駄目だ。旅券切替の為に印度領事館に行くぐらいだ。坂の上にある、普通の家と間違えるような質素さで他国の領事館の豪華さに比してなんたる素朴さよ。あたかも館内は静寂そのもので冷やかさを覚える。だから用事ですつと行つてすつと帰ってくる愛想なさだ。そうそう、いつだったか人に誘われて山手に在る美味いピフテ

してないのが返す返すも残念である。

食べ物といえは神戸は中華そばも美味しい。三年程前に妹が神戸に公演に来ていたので母と二人で面会に行つたが、帰りに駅の附近の中華そば屋で五目そばを注文したら、そのおいしさと量の多いのにびっくり、年数を経た今でも我が家の語り草となっている。

大使館というピヤホールが神戸にあるらしい。大阪人にはとても考えつきもしない如何にも神戸に相応しくてユーモアに溢れている。神戸では飲んだことがないの、ぼちぼちとこの店あたりから開拓しようかなと思う。

遠い妹を思うとき、港に一人佇む姿が浮ぶ。風に靡く黒髪、長い睫、物憂げで佻しげな二つの大きな瞳、境界線のくつきりしている笑のない唇：誰かが神戸港といえ、私はいつも孤独な女であり少女である彼女を眼前に見る。港が妹に、彼女が港にとダブつてしまふ。それほど彼女と神戸港は符合するのだ。

どうやら妹は神戸に精神面を求めているのに私は物品や飲食物を神戸に求めている。

いささか恥ずかしき心地である。〈同人雑誌ヴィキングス会員〉

も、まんざら神戸とは縁がなくもない。両親の新婚時代には神戸に住んでいたことがある。時折母から話をきく。それかあらぬか上の妹は自分の出身地は神戸だと主張するほど神戸好きで、特に港に魅せられている。現在彼女は東京にゐるが、時々帰阪しても寸暇を見つけては、せつせと神戸通いをしている。私ときたらからつきし

キ屋さんに案内していただいたが、肉のあまり好まない私でもそのうまさに舌鼓を打った。さすがに肉の本場である。慌ててお代りをした。相手が未だ半分も平げていず、「もつとゆっくり食べなさい、食事は時間をかけて楽しむものだ」と言われて赤くなるのを感じたが、あんなに食欲を覚えさせた店を私は知らない。店名を記憶

神戸労音の十五年をふりかえって

柴田隆弘

はやいもので、神戸に労音がつくられてから、十五年の年月が流れました。労音がつくられた当時は、丁度朝鮮戦争のさなかで、今日とよく似た情勢でした。戦後最後の荷のように生れた文化団体が一応整理され、メーデーの文化祭が一カ月にもわたってくりひろげられる程さかんだった労働組合文化部の活動も、相つぐレッド・パージで働き手を失い、全く火の消えたような状態でした。その空白にあきたりず、何ものかを求める力があるいは合唱に、映画に、労音にと結集されて行ったのです。

今日全国的な規模で活動している文化団体は、ほとんどがこの頃に出来たものです。

労音運動にとって、忘れることの出来ない人は、何といっても須藤五郎さんです。当時勤労者にとって高額にすぎた音楽会の入場料金を、自分たちの手で音楽会を組

織することによって、安く聞けるようにしようという意見を出され、朝日会館の十河巖館長や職場楽団から出ている委員と一しょになつて労音を作られたのが今日参議院議員として活躍しておられる須藤五郎さんなのです。その意味では、労音の生みの親ともいうべきでしょう。物価が今より安かつたとはいえ、わずか五〇円の会費で、一流音楽家の生の演奏にふれることが出来た喜びは、今日では想像も出来ない程大きいものでした。音楽愛好家の希望に応えたこの運動はその後全国にひろまり、今日一六〇の都市に六〇万人の会員を数えるにいたつたのです。

今日でこそ「労音」の名は全世界に知られるようになりましたが、十五年前では、労音をつくろうとよびかけても、勤労者にそんなことが出来るだろうかと、働いている者が自分の力を信じていない状態でした。毎日十以上の職場に音楽の愛好者をたずねて行き、趣旨を説明し、準備会に集つてもらつたのですが、今日程職場の空気がきびしくなかつた当時は、勤務時間中でも自由に話が出来、わずか7回の準備会で結成にもつて行くことが出来ました。

事務所も資金もなかつた当初、会議場を貸して下さり、会費受付

の事務まで代行して下さった「兵教組」の好意は忘れることが出来ません。当時の書記長岩橋哲夫先生や若い二人の事務局の女性は、今どこでどうしておられることでしょうか、時々思い出します。

美しい講堂を長い期間心よく貸して下さった山手学園の先生方の好意も忘れたいものです。プログラムを表紙に、いつも楽しい図案を描いて下さった川西英先生、5周年記念例会として歴史的な感動をまきおこした「森の歌」の合唱を指導して下さった宝塚の高木和夫先生、レコード・コンサートにユーモアにみちた解説をして下さった近江屋清兵衛先生等は、相ついで他界されましたが、労音が今日の大組織になつたのは、以上のほか、数えきれない外部の方がたの温かいご支援のたまものと感謝しています。

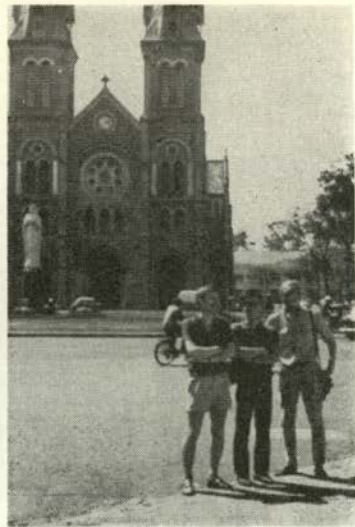
7月24日には、私たちは中国から招いた56人からなる大編成の歌舞団の例会を開き、8月の15周年記念例会には二度と戦争をおこさせない堅い決意をこめたプロコフイエフのオラトリオ「平和の守り」の日本初演を行います。15周年を迎えた今日、これからもまた、数かずの方たちのご支援にまたねばならないことでしょう。

〈神戸労音事務局長〉

ふたたびサイゴンへ

中谷 勲

〈神戸大学経済学部4年生〉



ランバンからバンコックまでのバスの車窓から見えた田園風景。緑の中、遠く寺院の赤と緑の屋根が、真青な空を背景に、灼熱の太陽の下で輝く。バンコックでは知合になった消防士トベサック君、オーストラリアからのレックス君らと、消防署宿舎で四日間共同生活しました。每晚持参の醬油でスキヤキを作り、最後の滴の一汁まで取り合いをし、各国の歴史、政治、宗教、果ては恋愛論、国歌と大いに語り合った。

週二回の国際列車に、予約なしで、無理やり乗り込み、バンコックを後に、シンガポールへ向った。ペナン、クアラルンプール、シナガポールへと、延々と続く密林、ゴム園野生の果物、粗末な小屋の原住民の黒い顔。クアラルンプールは、丸屋根のイスラム様式と、英国風の建物が美しく調和する町で、寺院から聞えるあの独特な物悲しいメロディーのコーランの読経に激しく旅情をかきたてられました。

今度の旅の収穫の一つは、多くの若者と生活を共にし、心おきなく語りあえたことです。人種問題の複雑なマレーシアの若者達は、しかし、明るく陽気だった。真黒なインドの女子、精悍な顔つきのマレー人、おしゃべりな男女の中国医学生仲間。「日本は、アジア一の文明国、美しい国、フジ、サクラ」と、まだ見ぬ日本について語ってくれた車中のタイ学生。

「戦争中、私は日本軍に……と冷たい目をしたベナンのマレー人。ベタ遅れの列車内で「時間通りでないのが習慣」と笑った大男のインド人車掌。「アキヒトとミチコを見ましたよ。ナルは可愛いですね」というタイの女子大生。日本製のオートバイ狂で「白バイと競争するのが自慢です」というマラッカの若者。陽気でおしゃべりな若者達と真夜中田舎の駅で飲んだコーヒの味。

三日目我々は再度サイゴンを訪れました。ゆきのサイゴンは、我々をアメリカ大使館爆破で迎えてくれましたが、帰りはメコンデルタでの激しい戦闘でした。船から見える戦火とどろく砲火、それには無関心に小船をあやつっている貧しい農夫達の汚れた服が痛々しく眼にうつりました。

一カ月ぶりのサイゴンは、相変らず焼けつく、爆破された大使館は窓をレンガでうめた姿になり、裏町は物売りに群がる貧しい市民で混雑を極めていました。一カ月前知り合った高校生の家を訪ねて見ましたが、彼はもういませんでした。「帰りに寄って下さい。会えぬかも知れません。来月から空軍に入ります」と公園で砂糖きびを噛みながら夜半まで語ったひよわな彼を思い出す。ただ一人の息子を送り出した彼の家は、以前と比べ何か薄暗く、姉の親念し切った様子に胸を打たれました。たった一カ月でフイーさんの家庭をも踏みにじた残忍な戦争という巨人——彼の無事を祈らずにはおられませんでした。(写真左はサイゴン郵便局前でアウヤイ姿のフイーさん・中はメコンデルタ風景・右はサイゴンで中央は中谷君)

ひととき



61

★ある集い★★★☆☆☆☆

その足あと

「ひととき」神戸グループ

六一号目の

ひととき誌

小島種子

「ひととき会」神戸グループが結成されたのは昭和三十一年一月である。「ひととき会」はこの他に京都、大阪など十二の地区グループがあり会員は朝日新聞家庭面の「ひととき」欄に投稿を掲載された婦人ばかりのグループで、書くことを通じて結びあつた仲間である。

神戸グループの会員数は五十二名であるが移動が割に多いため昭和三十三年以前の入会者で現在も在籍している者の数は約十名である。グループの土台が固まったのは大体三十七年ごろからではないかと思う。はじめのころは例会の集まりが悪くて、グループ当番の頭痛の種であった。だが映画鑑賞

や教育関係の講師のお話しだと少しは出席率がよくなった。最近では例会出席者の数も安定してきたらしい。神戸グループの範囲は兵庫県全域にわたっているが例会出席者の大半は、神戸市を中心にした隣接地域の会員たちである。地形の関係とはいえ淋しいことでもある。

例会は毎月一回朝日新聞神戸支局応接室を拝借して開く。参加人員は平均十五人ぐらいいでおもに家庭の主婦である。講師をお招きして話しをお聞きする時もある。年に一、二度はレクリエーションもある。講師の範囲は非常にひろい。社会・経済・文学・医学ETC。あらゆる分野にわたつてとりあげる。大学の専門の諸先生をはじめとして、婦人議員・社会活動家・朝日新聞社の方、変つたところで寝具メーカーや証券会社の方のお話も伺った。但しどんな場合もPRは一切お断りである。新聞社の方の時には遠慮なく新聞評もさせていただく。会員の大方が書くことに負けぬくらい話すことも好きなので、一旦話はずむとものにぎやかなこと、だが人のうわさ話しをせぬ心がけはある。PTAなどは絶好の話題の対象である支局外の例会では、昭和三十三年に移民船のアルゼンチナ丸を見学した。本船までのランチの乗りお

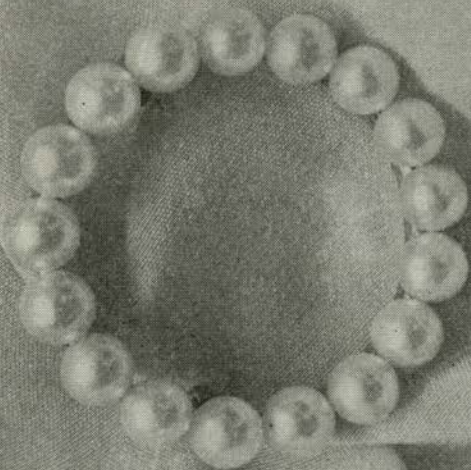
りに大さわぎしたものである。グループの対外活動としては三十一年の北海道冷害救援をはじめとして、翌年の西九州地方水害見舞や三十四年の十五号台風、去年の新潟地震見舞などささやかながら努力してきた。特に北海道冷害の時に遠い所から二時間も汽車に乗って救援物資をとどけて下さった会員にはさすがに一同感激したものである。又昭和三十五年六月安保改定問題で日本の世論が激しくわいた時のグループの真剣な表情も忘れえぬ思い出の一コマである。

この他「ひととき会」の機関誌である「ひととき」誌の廻りもち編集も仕事の一つである。大休京阪神戸グループの廻りもちで、昭和三十年八月第一号発行以来隔月発行で今年六月十五日に六十一号を送り出した。神戸グループの編集担当は三十二年、三十五年の二年間、それに今年の一月から六月まで、回を重ねる毎にグループ員の親しさがますますの嬉しいことである。今年には例会のほかに日本歴史の勉強会を月一回もつことにした。何かまとまったものをつけて勉強したいという願いからである。どこまで続くか分らないが、とにかく頑張つてゆきたいと思つている。〈筆者は神戸大学小島輝正教授夫人〉

「ひととき会」の編集事務所は神戸市東灘区本山町岡本桜林住宅59号小島種子内「ひととき」誌は頒価一〇〇円送料二〇円です

KITAMURA PEARLS

世界の人々に
愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL 331 0072
 オリエンタルホテル店 338111E X T. 331
 東京：スキヤ橋店 TEL (571) 8032

お中元に
神戸の味

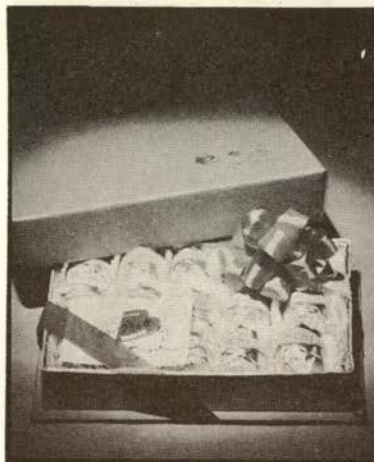


★市内無料配達 地方送り承ります

神戸三宮トアロード
 本店(33)1番2番3番
 南店(33)1616番



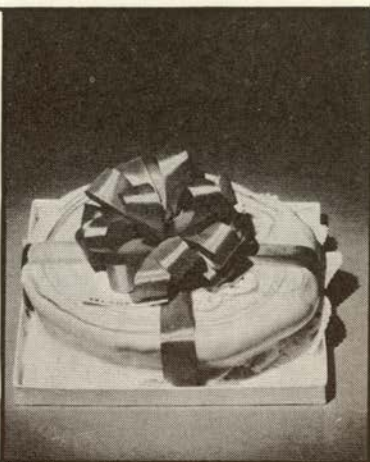
* 御中元の御贈答に！



マロングラッセ

ヒロタの
世界の
三大銘菓を

バームクーヘン



プラムケーキ



洋菓子の
ヒロタ

本社 大阪市天王寺区上汐町6
(大阪) 新大阪駅店・富国店
大阪駅東口店・梅新店・ウメ
ダ店・戎橋店・ナンバ店・天
王寺店・天満店・塚本店・豊
中店・尼崎店・守口店・淡路店
(神戸) 元町店・三宮秀品店